

2024 年度
(令和 6 年度)

世田谷区立松沢中学校
学校関係者評価報告書

2025 年 2 月 21 日
世田谷区立松沢中学校
学校関係者評価委員

1. 調査の結果

本報告書は、「令和6年度 世田谷区立松沢中学校 学校経営方針」の「めざす学校・生徒・教師の姿」で示された、学校像、生徒像、教師像の各項目と比較的関係するアンケートの質問項目および生徒・保護者・教員へのヒアリングを踏まえて分析した。なお、生徒のアンケートは90%以上の回収率となっているが、保護者に関してはGoogle Formsで回収しており、回収率の向上が課題となっている。今年度は、1・2年生保護者が80%を超えたが、3年生保護者の回答率が低かった(回収率全体:令和4年度:約40%→令和5年度:約67%→令和6年度:約69%)。

2. 調査概要

2-1 めざす学校像

《めざす学校像》

学校像(1) 「いじめ、体罰」のない、安全で安心できる「心の居場所」となる学校

生徒5-2 先生たちは、相談がしやすい				
	R3	R4	R5	R6
1年生	65%	65%	84%	71%
2年生	65%	66%	75%	75%
3年生	71%	79%	61%	82%
合計	67%	70%	73%	76%

【生徒5-2】「先生たちは、相談しやすい」という質問項目の肯定的回答は、全体で76%(+3%)となった。学年別でみると、1年生は71%(-13%)となったが、3年生は82%(+21%)となった。経年変化でみると、2年生は84%→75%(-9%)と減少したが、3年生は65%→75%(+10%)→82%(+7%)と学年が進むにつれて增加了。

本校では、生徒が「心の居場所」を作るきっかけとなるハートフル面談を、学校独自に実施しているが、生徒へのヒアリングではハートフル面談が有意義であるとの意見が圧倒的に多かった。本質問項目の肯定的評価は年々、少しづつではあるが増加しており、ハートフル面談の効果が着実に効果を表しているとみることができる。なお、ハートフル面談の実施時期については、ハートフル面談が一部、授業の質問になっている例もあるといった意見もあったことから、テスト前の時期を外す、夏休み前後など現行より早めに実施するなど、再検討されたい。

生徒独自項目3 私のクラスには、生徒同士で注意し合うことができる雰囲気がある				
	R3	R4	R5	R6
1年生	78%	71%	78%	67%
2年生	71%	83%	77%	53%
3年生	86%	80%	75%	67%
合計	78%	78%	77%	62%

【生徒独自項目(3)】「私のクラスには、生徒同士で注意し合うことができる雰囲気がある」という質問項目の肯定的回答は全体で62%(-15%)となった。学年別でみると、1年生67%(-11%)、2年生53%(-24%)、3年生67%(-8%)とすべての学年で、近年で最も低い評価となった。経年変化でみると、特に2年生は78%→53%(-25%)、3年生も77%→67%(-10%)と減少した。

肯定的回答が減少したのは、「わからない」ではなく否定的回答をした生徒が32%(+10%)に増加したことが影響している。実際、自治委員へのヒアリングでは、「注意する人が浮いてしまう雰囲気がある」という発言があった。しかし、後述するが、2年生の経年変化での大幅な減少については、ヒアリングでは関連する発言を聞き出すことはできなかった。

学校像(2) 生徒同士と教職員がお互いを大切にし、「心の絆」をつくる学校

生徒独自項目-1 私は、思いやりの心や認め合う心をもって友達や他の人と接している				
	R3	R4	R5	R6
1年生	88%	88%	90%	87%
2年生	91%	90%	85%	89%
3年生	92%	94%	90%	92%
合計	90%	91%	88%	89%

生徒へのヒアリングでは、「松中祭をやる前はあまり仲良くなかったが、先生のアドバイスで生徒全員がやる気になり、一致団結した」というように、教員が積極的に生徒とともに行事に関わることで、クラスの雰囲気が良くなかったとの意見が複数寄せられた。本質問項目は、生徒の自己評価であり、生徒自身の性質という側面もあるが、これを学校の教育活動全体を通して成長を促してきた結果としてもみるべきであろう。

学校像(3) 学ぶ意欲を高めるための「生徒の学習力と教師の授業力」を向上させる学校

生徒1-4 先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている				
	R3	R4	R5	R6
1年生	86%	83%	95%	81%
2年生	92%	92%	81%	88%
3年生	92%	95%	84%	93%
合計	90%	90%	87%	87%

数年前から本格的に導入されたICT機器を適切に活用し、わかりやすい授業が展開されていることがわかる。なお、例年、1年生は他の学年に比べて肯定的回答が低い傾向にあり、小学校

のICT活用との「差」に戸惑っている生徒の存在が、ヒアリングで聞き取ることができた。

学校像(4)保護者・地域に教育活動を開き、信頼され「共育」を実践できる学校

保護者8-2 本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している				
	R3	R4	R5	R6
1年生	92%	84%	97%	77%
2年生	95%	82%	82%	80%
3年生	93%	100%	88%	83%
合計	93%	89%	89%	80%

学校への理解を高めるために必要なことである。「すぐーる」による情報発信が便利であるとの意見は多く寄せられたが、「すぐーる」からの情報量が多く、重要な情報を見落とすことが

【生徒独自項目(1)】「私は、思いやりの心や認め合う心をもって友達や他の人と接している」という質問項目の肯定的回答は、全体で89%(+1%)と、引き続き高い評価が得られた。

生徒へのヒアリングでは、「松中祭をやる前はあまり仲良くなかったが、先生のアドバイスで生徒全員がやる気になり、一致団結した」というように、教員が積極的に生徒とともに行事に関わることで、クラスの雰囲気が良くなかったとの意見が複数寄せられた。本質問項目は、生徒の自己評価であり、生徒自身の性質という側面もあるが、これを学校の教育活動全体を通して成長を促してきた結果としてもみるべきであろう。

【生徒1-(4)】「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」の質問項目の肯定的回答は、全体で87%($\pm 0\%$)と引き続き高い評価が得られた。学年別でみると、2年生の肯定的回答が88%(+7%)、3年生の肯定的回答が93%(+9%)となった。1年生は81%(-14%)と大幅に減少したが、これは例年の水準とほぼ同等である。

数年前から本格的に導入されたICT機器を適切に活用し、わかりやすい授業が展開されていることがわかる。なお、例年、1年生は他の学年に比べて肯定的回答が低い傾向にあり、小学校

のICT活用との「差」に戸惑っている生徒の存在が、ヒアリングで聞き取ることができた。

【保護者8-(2)】「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」という質問項目の肯定的回答は、全体で80%(-9%)となった。学年別でみると、1年生は77%(-20%)と大幅に減少し、近年で最も低い評価となった。また経年変化でみると、2年生が97%→80%(-17%)に減少した。

保護者へのヒアリングから、子どもが学校からの配布物を保護者に渡していないケースが多いことが改めてわかった。学校の様子を家庭にいかに確実に届けることができるかは、家庭の

あるとの意見が複数、得られた。「すぐーる」のチャンネル機能(再通知設定や手紙のデジタル配信)を積極的に活用したり、受信する対象者を指定したりすることは、設定ミスによって必要な情報が届かないことがあり得るというリスクは生じるが、大切な情報が家庭で見過ごされてしまう現状を優先的に改善することが必要ではないだろうか。

保護者9-3 本校は、地域に情報を提供している				
	R3	R4	R5	R6
1年生	53%	55%	65%	46%
2年生	71%	48%	55%	47%
3年生	72%	74%	52%	57%
合計	65%	59%	57%	50%

「地域についての情報を自分から取りに行こうとしないと知ることができない」や、「どのくらい学校が開かれているのかわからない」という回答があった。「すぐーる」で配信すべきこと、学校ホームページの日記、または個別のページで継続的にみられるような形で残すべきものとを適切に切り分けていくことが課題となっている。

学校像(5) 規範意識を育て、心豊かな言語環境をつくり、生徒の「人権」を守る学校

生徒2-2 先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している				
	R3	R4	R5	R6
1年生	85%	91%	93%	90%
2年生	86%	83%	87%	98%
3年生	83%	91%	80%	94%
合計	85%	88%	87%	94%

このほか、【保護者9-(3)】「本校は、地域に情報を提供している」という質問項目の肯定的回答は全体で50%(-7%)と、肯定的回答の減少傾向が続いている。学年別でみると、1年生の肯定的回答が46%(-19%)、2年生は47%(-8%)と減少した。経年変化でみると、2年生が65%→47%(-18%)と大幅に減少した。

回答の内訳をみると、保護者全体の42%が「わからない」と回答している。保護者へのヒアリングで、「学校は保護者や地域に開かれていると感じますか?」という質問に対して、

「地域についての情報を自分から取りに行こうとしないと知ることができない」や、「どのくらい学校が開かれているのかわからない」という回答があった。「すぐーる」で配信すべきこと、学校ホームページの日記、または個別のページで継続的にみられるような形で残すべきものとを適切に切り分けていくことが課題となっている。

学校像(5) 規範意識を育て、心豊かな言語環境をつくり、生徒の「人権」を守る学校

【生徒2-(2)】「先生は学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」という質問項目の肯定的回答は、全体で94%(+7%)となった。学年別でみると、2年生は98%(+11%)、3年生は94%(+14%)と近年で最も高い評価を得た。また、経年変化でみると、3年生は87%→94%(+7%)と肯定的評価が増えた。

時間と手間のかかる指導の形ではあるが、生徒にその行動の意味を内面化させる意味でも大切な指導の方法である。本校の生徒指導が、適切におこなわれていることがわかる。

学校像(6) 学習や生徒会活動、学校行事等、生徒の「自己有用感」「自己肯定感」を高める学校

生徒3-2 学校行事は達成感がある				
	R3	R4	R5	R6
1年生	87%	86%	87%	89%
2年生	94%	88%	83%	91%
3年生	94%	96%	89%	91%
合計	92%	90%	86%	90%

【生徒3-(2)】「学校行事は達成感がある」という質問項目の肯定的回答は、全体で90%(+4%)と高い数値を維持した。経年変化でみると、3年生は83%→91%(+8%)と増加した。

教員は、学校行事を「生徒自身が責任をもつたり、仲間意識を深めたりする」良い機会ととらえていることがヒアリングでも聞き取れた。そのような指導が、学校行事が生徒にとって達成感のある有益な活動となり、生徒の「自己有用感」や「自己肯定感」を高めることに繋がることが期待される。近年、学校行事にかける時

間が削減されている傾向にあるなかで、前述したように本校の教員は学校行事の教育的意義を大切に、効果的な指導を心がけている。こうした姿勢が、教員との関係や学校全体の高い評価にもつながっているとみることができよう。

生徒独自項目4 私は、委員会や係活動などの授業外の活動に積極的に取り組んでいる				
	R3	R4	R5	R6
1年生	70%	74%	81%	77%
2年生	74%	86%	83%	82%
3年生	75%	84%	83%	79%
合計	73%	81%	82%	79%

【生徒独自項目(4)】「私は、委員会や係活動などの授業外の活動に積極的に取り組んでいる」という質問項目の肯定的回答は、全体で79%(-3%)となった。

学校行事に比べると、生徒のかかわりに差はあるものの、多くの生徒は積極的に取り組んでいると評価することはできる。新型コロナ禍により、部活動や学校の活動が制限されて以降の長期的な視点では、積極的に取り組む生徒が増えている傾向にある。

2-2 めざす生徒像

《めざす生徒像》

生徒像(1)自ら学びに向かい、調べ、その学びを活かした豊かな表現のできる生徒

生徒1-1 先生は、課題について、自分で考えたり、友達と話したりする時間を授業の中で取っている				
	R3	R4	R5	R6
1年生	96%	91%	100%	87%
2年生	95%	95%	91%	99%
3年生	87%	98%	91%	94%
合計	93%	95%	94%	93%

【生徒1-(1)】「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と話したりする時間を授業の中で取っている」という質問項目の肯定的回答は、全体で93%(-1%)と、引き続き高い評価が得られた。

教員へのヒアリングでは、「教科書をただなぞるのではなく、問題を生徒に投げかけて、できるだけ自分達で考えるようさせる」という意見が得られた。生徒が自ら学びに向かう姿勢を大切にする、対話型の授業が意識的に展開されている。

生徒1-3 授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする場がある				
	R3	R4	R5	R6
1年生	92%	96%	99%	91%
2年生	88%	89%	94%	98%
3年生	89%	92%	93%	94%
合計	90%	92%	95%	94%

【生徒1-(3)】「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」という質問項目の肯定的回答は全体で94%(-1%)と、引き続き高い評価が得られ、すべての学年で90%を超えた。

生徒へのヒアリングでは、「単元が終わるごとにロイロノートにまとめ、発表、共有している」、「授業のはじめにグループに分かれて、意見交換や調べ学習をする」といった意見が複数聞くことができた。いずれも、教育活動に対する生徒の評価は極めて高い。

生徒像(2)人間関係力を高め、相手を敬い、自分の言動に責任の持てる生徒

生徒独自項目-3 私のクラスには、生徒同士で注意し合うことができる雰囲気がある				
	R3	R4	R5	R6
1年生	78%	71%	78%	67%
2年生	71%	83%	77%	53%
3年生	86%	80%	75%	67%
合計	78%	78%	77%	62%

とんどの先生は授業中や授業外で質問を聞く時間を作ってくれる」、「体育祭は学年で最下位だったけれど、仲は深まった」といったように、昨年度と同様に肯定的な意見が揃った。教員と生徒、生徒間の関係性といった「基盤」は保たれているようである。すると、残るは生徒間の関係が残ることになるが、生徒へのヒアリングではその点についての否定的な意見は出てこなかった。本質問項目の評価が下がった原因については、Q-U調査等を含めて継続して追究することが必要である。

生徒像(3)自他の生命や人権を大切にし、思いやりのある言動が取れる生徒

生徒独自項目-1 私は、思いやりの心や認め合う心をもって友達や他の人と接している				
	R3	R4	R5	R6
1年生	88%	88%	90%	87%
2年生	91%	90%	85%	89%
3年生	92%	94%	90%	92%
合計	90%	91%	88%	89%

していくと感じる『場所』」と認識していた。生徒へのヒアリングでは、学校行事において「やる気がある人が引っ張って、周囲に影響していったことで仲が深まり体育祭を楽しく協力し合いながらできた」といった意見が複数聞かれた。生徒は学校行事など様々な機会を通して協調性や思いやりの心が育まれている。

【既出】p. 1 学校像(1): 【生徒独自項目-(3)】「私のクラスには、生徒同士で注意し合うことができる雰囲気がある」という質問項目の肯定的回は、全体で 62%(-15%)に減少した。

生徒へのヒアリングで、生徒が意見を安心して言える環境基盤が成立しているかを調べるために、「先生は生徒を公平に扱ってくれるか」、「学校行事等で生徒間の親睦は深まったか」という2つの質問をした。これらについて、「先生は公平に扱ってくれている」、「ほ

【既出】p. 2 学校像(2): 【生徒独自項目-(1)】「私は、思いやりの心や認め合う心を持って、友達やほかの人と接している」という質問項目で、本年度の肯定的回は全体で 89%(+1%)となった。

生徒独自項目-(3)のクラスで注意し合う関係性の評価は低下したものの、本質問項目についてはこれと連動せず、高い評価を維持した。教員へのヒアリングでは、多くの教員が学校行事を「他者の頑張りを見る・比較することができ、拍手・歓声・称賛を通して思いやりに繋が

生徒像(4) 何事にも粘り強く取り組み、心と体の健康を向上させようとする生徒

生徒6-6 私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる				
	R3	R4	R5	R6
1年生	85%	79%	69%	77%
2年生	73%	74%	73%	76%
3年生	69%	66%	68%	73%
合計	76%	73%	70%	75%

【生徒 6-(6)】「私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」という質問項目の肯定的回答は、全体で 75%(+5%)となった。学年間での差も、僅少となった。経年変化をみると、2年生が 69%→76%(+7%)となった。

2-3 めざす教師像

《めざす教師像》

教師像(1)：生徒の心に向き合い、教職員間の和を大切に温かな人間関係が築ける教師

生徒3-3 先生は、生徒の意欲を大切にしている				
	R3	R4	R5	R6
1年生	86%	88%	95%	88%
2年生	89%	88%	87%	91%
3年生	90%	93%	82%	92%
合計	88%	90%	88%	90%

【生徒 3-(3)】「先生は、生徒の意欲を大切にしている」という質問項目の肯定的回答は、全体で 90%(+2%)と高い評価を維持した。学年別でみると、1年生の肯定的回答が 88%(-7%)となったが、昨年度の1年生を例外とすれば、例年とほぼ同等の評価である。2年生と3年生については、ともに肯定的回答が 90%を上回り、学年による差も少なくなった。

教員へのヒアリングでは、「すぐに答えを出さず、生徒自身に考えさせるような授業を行っている」といった意見のほか、学校行事でも生徒の自主性を大切にした指導をしていることが聞き取れた。

生徒5-1 先生たちは、生徒に丁寧に指導している				
	R3	R4	R5	R6
1年生	88%	86%	99%	90%
2年生	91%	88%	90%	96%
3年生	92%	94%	82%	96%
合計	90%	89%	90%	94%

また、【生徒 5-(1)】「先生たちは、生徒に丁寧に指導している」という質問項目の肯定的回答は全体で 94%(+4%)と、高い評価を得た。生徒や保護者へのヒアリングからも、「多くの先生は授業内外で生徒のために一所懸命頑張ってくれていて、親身になって公平に対応してくれる」という肯定的な意見をそれぞれ複数聞き取ることができた。教員が生徒と保護者に向き合い、丁寧な指導・対応ができていることがわかる。

教師像(2)：「わかるように・わかるまで」をモットーに常に授業を振り返り、改善できる教師

生徒1-2 先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している				
	R3	R4	R5	R6
1年生	91%	90%	95%	90%
2年生	87%	89%	93%	96%
3年生	92%	92%	88%	91%
合計	90%	90%	92%	92%

【生徒1-(2)】「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」という質問項目の肯定的回答は全体で92%($\pm 0\%$)と、引き続き高い評価が得られた。学年別でみると、全ての学年が90%を超えた。

生徒と教員へのヒアリングから、一部の科目においては「単元のはじめに目標を板書する」、「テスト前に内容がまとめられたプリントが配布される」といった意見があった。授業内容の理解を促進するための様々な取り組みがなされていることがわかる。定期的な授業評価

アンケートの実施、タブレットを用いた質問対応等をおこなうことで、学習内容の理解を深める機会をさらに増やすことができるだろう。

生徒1-4 先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている				
	R3	R4	R5	R6
1年生	86%	83%	95%	81%
2年生	92%	92%	81%	88%
3年生	92%	95%	84%	93%
合計	90%	90%	87%	87%

【既出】p.2 学校像(3): 【生徒1-(4)】「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」の質問項目の肯定的回答は、全体で87%($\pm 0\%$)と高い評価が得られた。

この評価においては、十分な成果を挙げていることはすでに指摘した通りである。ただし、1年生の生徒へのヒアリングでは、「タブレットなどを小学校よりも使わなくなった」という意見が聞かれた。学習指導にICTをどのように採り入れるかについては、各教員の教育観や、教

科の特性によっても異なる。しかしながら、教科によってICT活用の仕方に違いがあることについて、戸惑っている生徒がいる。なお、本校では、現在、ICTに関する研修は実施していないとのことである。「主体的・対話的で深い学び」に加え、「個別最適な学び」が学習指導要領で求められており、今後、一層、ICTを活用した新たな指導や活用が進み、活用スキルのアップデートが絶えず要求されるようになることが予想される。世田谷区では、校内のICT活用の指導的立場となる教員(「ICTインフルエンサー」)を置いているが、エントリーは教員の任意に頼つており、区内でも30名程度しかいない。その理由として、通常の業務に加えてICTインフルエンサーとしての研修・業務を行うとなると、大きな負担となってしまうことなどが挙げられる。ICTインフルエンサーを置くことで、校内の課題点の改善や授業・学習環境の向上に繋げることが期待される。可能であれば、校務分掌の適切な配分と併せて、校内からICTインフルエンサーとなる教員を輩出されることを期待したい。

保護者8-4 本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子がわかる

	R3	R4	R5	R6
1年生	83%	79%	89%	70%
2年生	84%	69%	75%	75%
3年生	87%	87%	74%	84%
合計	85%	78%	79%	76%

減少した。

保護者へのヒアリングでは、「学校は開かれてはいるが、保護者が情報を取りに行こうとしないと知ることができない」といった意見が複数得られた。来年度からは土曜公開授業がなくなるなど、保護者が学校に赴く機会がより減少することになる。この措置は、仕方ないところではあるが、その代替として、情報発信の重要性が増すことになる。

保護者11-1 本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている

	R3	R4	R5	R6
1年生	55%	53%	66%	50%
2年生	59%	50%	56%	46%
3年生	63%	67%	48%	60%
合計	59%	57%	57%	52%

た。

保護者へのヒアリングでは、学校は「コロナの影響以降、地域の人を歓迎するような雰囲気ではない」という意見もあった。すでに学校が受け入れている諸活動について、学校だよりのほか、ホームページで紹介するタブを新設するなど、情報が「流れてしまわない」工夫が必要であろう。

教師像(4)：叱るだけではない厳しさと甘やかすだけない優しさをもつ公平な教師

生徒2-2 先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している

	R3	R4	R5	R6
1年生	85%	91%	93%	90%
2年生	86%	83%	87%	98%
3年生	83%	91%	80%	94%
合計	85%	88%	87%	94%

でも同様のことがいえる。

教師像(3)：保護者や地域の声に耳を傾け、共に生徒を育てる教師

【保護者 8-(4)】「本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子がわかる」という質問項目の肯定的回答は、全体で 76%(-3%)となつた。学年別にみると、3 年生の肯定的回答は 84%(+10%)と増加した一方で、1 年生は 70%(-19%)大幅に減少した。経年変化でみると、3 年生の肯定的回答が 75%→84%(+9%)となつた一方で、2 年生が 89%→75%(-14%)と大幅に

減少した。

【保護者 11-(1)】「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている」という質問項目の肯定的回答は、全体で 52%(-5%)と減少した。学年別でみると、【保護者 8-(4)】の質問項目「本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる」の回答傾向と同様に、3 年生の肯定的回答は 60%(+12%)と増加した一方、1 年生は 50%(-16%)、2 年生が 46%(-10%)と減少した。また、経年変化でみると、2 年生の肯定的回答が 66%→46%(-20%)と大幅に減少し

た。

【既出】p.3 学校像(5)：【生徒 2-(2)】「先生は学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」という質問項目の肯定的回答は、全体で 94%(+7%)となつた。

生徒へのヒアリングでは、「松沢中はルールに厳しい」との声もあったが、それでもこのような高い評価を得ている点は教員と生徒との信頼関係が築けていることがあらわれているといえる。これは、p.6 教師像(1) 質問項目生徒 5-(1)「先生たちは、生徒に丁寧に指導している」

教師像(5):教育公務員としての強い自覚を持ち、服務規律の厳正、自らの健康、人権を守る教師

教師像(5)についての考察は、対応するアンケート質問項目がないが、たとえば【生徒2-(1)]「私は学校で過ごし方やルールについて考えて行動している」、【生徒2-(2)]「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」、【生徒2-(3)]「私は、先生が指導した学校の過ごし方やルールについて理解できる」など、教員に対する生徒の肯定的評価はどの学年でも90%前後と高い。保護者へのヒアリングでも既出の通り、教員の丁寧な対応ということが評価を得ていることがわかる。教員へのヒアリングでも、学校の経営計画や方針を理解し、日頃から意識して行動している様子が伺えた。

3.全体を通しての所見

3-1 概観

本校の生徒の教員や学校に対する評価は、総じて高い。これらについては、多くの項目で昨年度に引き続き、高い評価を得た。とりわけ、授業、生徒指導、学校行事、教員との関係性に関する質問項目は、極めて高い。個々の教員が、生徒の自主性を重んじながら、丁寧に時間をかけて対応している姿がみえてくる。生徒からの信頼は、教育活動の様々な場面で育まれるものであるが、重要な指導の場面でそれぞれに高い評価を得られていることは心強い。

なお、評価を下げた項目としては、生徒4-(3)「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」という質問項目で1年生の肯定的回答が38%(-19%)となった点と、学校独自項目-3「私のクラスには、生徒同士で注意し合うことができる雰囲気がある」の二つについて、すべての学年で評価が低下した点が挙げられる。後者については、2年前には90%と高い成果を得ていたところもある。従前、学校関係者評価報告書で指摘してきたところではあるが、1年生の入学当初から段階的にキャリア教育に取り組むことが大切である。3年間を見通した学校全体のキャリア教育体系の再構築が求められる。

保護者については、全体的に評価が低下傾向にある。2年生の保護者の回答率は高かったが、それでも昨年度、または例年より低めの評価となった。経年変化でも下がっているものが多い。「わからない」とする回答が多かったのは、授業、キャリア教育、学校運営、地域との連携といった項目である。これらは、定期的な情報発信や「すぐーる」のより効果的な活用、ホームページに対応するページを新設していくことで当該情報を得ることができるようにしておくことなどが求められる。また、明確に否定的回答が多かった質問項目としては、主として教員への相談のしやすさ、家庭との連携などが挙げられる。前者は、教員の忙しさへの「遠慮」が作用しているかもしれないが、後者は情報の伝達面の課題といえよう。また、保護者の授業への評価に影響しているとみられるのが、生徒のタブレット端末の家庭での使用である。多くの家庭ではスマートフォンなどの利用について自宅で一定の制限をしているものの、学校のタブレット端末については家庭より制限が緩いことなどで、家庭学習や生活習慣に悪影響が出ないか心配する声がある。制限は世田谷区で決定する事項なので手を加えることはできないが、学校で「家庭でのタブレット端末の使い方スタンダード」のようなものを学校独自に策定して、家庭でのタブレットの使い方の留意点を喚起するなど、対応できることはあると思われる。

3-2 昨年度の課題への対応について

① 学校経営方針の共有

4月の職員会議で、校長から経営計画の内容について周知されている。また、学期のはじめにも共有されるほか、校長との面談の際にも経営計画が共有されている。

② キャリア教育の再構築

【生徒4-(2)] 「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」という質問項目に関しては、過去3年との数値に大きな変動はみられなかった。一方、

【生徒4-3] 「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」については、1年生の評価が大幅に下がり、学年ごとの評価が開いた。

③ 情報発信

保護者アンケートの項目8「学校からの情報提供について」の質問項目では、全ての質問で合計の値が3%~11%減少しており、この課題が解決したとは言えない。保護者の方へのヒアリングでは、提出物のリマインドを「すぐーる」を用いて発信していることに対して、非常にありがたいという意見が大半であったが、以前から指摘されているように「すぐーる」で発信されている情報量が多く、本当に必要な情報を見過ごしていることについても例年、市と適されている通りである。

3-3 本年度の課題点

① 生徒間で注意できる雰囲気の醸成

【生徒5-(2)] 「先生たちは、相談がしやすい」と【生徒独自項目(1)] 「私は、思いやりの心や認め合う心をもって友達や他の人と接している」では肯定的評価が多い。これはハートフル面談をはじめ日頃から教員と生徒との間に信頼関係が構築できている結果といえる。しかし、【生徒独自項目(3)] 「私のクラスには、生徒同士で注意し合うことができる雰囲気がある」については、特に2年生の肯定的評価が53%と昨年度の1年生の数値から25%も減少した。それ以外の学年でも昨年度から大きく減っており、全体の肯定的評価も70%を切り、62%になった。この原因は、このアンケートやヒアリングから究明することはできないので、様々な資料や普段の様子などを踏まえて対応することが求められる。

② ICT機器活用の推進

生徒へのヒアリングでは、基本的には多くの授業でICT機器を使用して授業を展開しているが、教員・教科によってその活用方法に差があるようである。世田谷区教育委員会では「世田谷区教育の情報化推進計画」を策定しているが、大項目2「教員のICT活用指導力の向上」(3)-②「ICTインフルエンサーによる教員間での課題解決やスキルアップの推進」に記載されているICTインフルエンサーを、できれば本校の教員の中から輩出し、校内のICT機器を用いた教務力向上やICT機器を活用したより有効な教育方法の開発ができる体制を整えていただくことをご検討いただきたい。

③ 地域連携の充実と適切な情報発信

学校では、地域の人材を活かした活動をしているものの、その情報発信において課題が残る。また、保護者にとって「すぐーる」は学校から得られる貴重な情報源となっているが、情報過多となっている点は課題として残っている。

「すぐーる」については、受信者フィルターを適切にかけることによって解消はできるようになっている。確かに、必要な情報が伝達できなかった場合の不安は残るが、対応をご検討いただきたい。また、地域への情報発信としては、学校のホームページが重要な役割を持つ。ホームページは「すぐーる」と異なり、情報が流れてしまわない=という利点がある。例えば、現在の松沢中学校のHPは様々なタブで整理されているが、「防災・安全」のタブには現在、災害時のガイドラインが二つ公開されている。しかし、それらは世田谷区教育委員会が策定したガイドラインのみであり、松沢中学校独自の対応マニュアルが掲載されていない。保護者の方は本校の災害対応が気になっているはずなので、それらに併せて松沢中学校独自の対応マニュアルを掲載することを提案したい。また、当該年度の学校の経営計画や学校運営委員会からの情報(議題、議事録の抄録など)、進路・キャリア教育の実施内容をそれ

それにタブを特設するなど、発信内容と公開するタブを最適化し、保護者や地域が適切な情報を得ることができるようにするための工夫を進めたい。

このほか、保護者へのヒアリングや学校評価委員会での質疑応答を通して、地域ボランティアへの参加が増えないと指摘があった。実際、ボランティアに関する質問項目についても低調のままである。生徒へのボランティアの周知の見直しも検討したい。また、コロナ禍によって途絶えた小学校との交流も復活できるような状況になってきている。学び舎の活動も、本年度の課題②と関連して、ICT機器使用の「小中ギャップ」を減らすために、赤松学舎間の意見交換や取り組みのすり合わせ等を進めていくことができれば、本校の教育活動が一層、魅力的なものになるのではないだろうか。

3. ①でも指摘したように、生徒と教員との関係、授業、学校行事といった根幹となる教育活動について、本校は極めて高い評価を得ることができている。その上で、さらにいえば保護者や地域との連携面で、3.③等で指摘した点を次年度以降、ご対応いただければ幸いです。最後に、本報告書を作成するにあたり、お忙しい中、アンケートやヒアリングなどにご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。貴校のますますの発展を祈念いたします。

以上